

## 平成 26 年度水生生物放射性物質モニタリング調査 (6～7 月)

### 1. 調査概要

福島県を中心に水生生物（藻類、水生昆虫、甲殻類、貝類、魚類、両生類等）を採取し、放射性物質濃度（放射性セシウム、放射性ストロンチウム）の調査を実施した（調査期間：平成 26 年 6 月 24 日～平成 26 年 7 月 27 日）。

また、水生生物生息水域における水環境の状況を把握するため、併せて、当該水域の水質、底質の一般項目（水質：COD、TOC、SS、濁度等、底質：TOC、強熱減量、粒度組成等）及び放射性物質濃度の調査を実施した。

調査対象水域は、過年度の本調査結果、水環境放射性物質モニタリング調査結果、及び関係機関において実施された水産物の放射性物質の測定結果、並びに地元の漁業従事者等へのヒアリングを踏まえ、下記のとおり選定した。

- ①河川：阿武隈川、宇多川、真野川、新田川、太田川
- ②湖沼：はやま湖、秋元湖、猪苗代湖
- ③海域：阿武隈川河口沖、相馬市沖、いわき市沖

○ 調査対象水域、実施年月日

区分	対象水域	区間	項目	実施年月日	備考
河川域	A 阿武隈川	新舟橋付近～飯野堰堤、 原瀬川（支川）	水生生物採取	平成26年6月25日、7月23日、27日	藻類・植物、水生昆虫、甲殻類、貝類、魚類、両生類、水底落葉等
			水質・底質採取	平成26年6月24日	（採水）A-1,A-2 （採泥）A-1,A-2
	B	松川（支川）合流部～大正橋、 摺上川（支川）	水生生物採取	平成26年6月27日、7月17日、 21日、23日、27日	藻類・植物、水生昆虫、甲殻類、魚類、両生類、水底落葉等
			水質・底質採取	平成26年6月24日	（採水）B-1～B-3 （採泥）B-1～B-3
	C 宇多川	川平橋～堀坂橋、玉野橋 付近	水生生物採取	平成26年6月28日	藻類・植物、水生昆虫、甲殻類、貝類、魚類、両生類、水底落葉等
			水質・底質採取	平成26年6月25日	（採水）C-1～C-6 （採泥）C-1,C-2,C-4～C-6
	D 真野川	善並橋～落合橋	水生生物採取	平成26年6月29日、7月2日、 4日、16日、17日	藻類・植物、水生昆虫、甲殻類、貝類、魚類、両生類、水底落葉等
			水質・底質採取	平成26年7月4日	（採水）D-1～D-5 （採泥）D-1～D-3,D-4a,D-5
	E 新田川	栢ノ木橋～須賀内橋	水生生物採取	平成26年7月3日	藻類・植物、水生昆虫、甲殻類、貝類、魚類、両生類、水底落葉等
			水質・底質採取	平成26年7月5日	（採水）E-1～E-5 （採泥）E-1,E-2a,E-3～E-5
	F 太田川	八重米坂橋～米々沢地区	水生生物採取	平成26年7月1日、4日	藻類・植物、水生昆虫、甲殻類、貝類、魚類、両生類
			水質・底質採取	平成26年7月8日	（採水）F-1～F-6 （採泥）F-1～F-5
湖沼域	G はやま湖		水生生物採取	平成26年6月30日、7月1日、 16日、17日	藻類・植物、水生昆虫、貝類、魚類、水底落葉等
			水質・底質採取	平成26年6月30日、7月1日	（採水）G-1,G-3,G-5 （採泥）G-1～G-5
	H 秋元湖		水生生物採取	平成26年6月24日	藻類・植物、水生昆虫、甲殻類、貝類、魚類、両生類、水底落葉等
			水質・底質採取	平成26年6月24日	（採水）H-1,H-3,H-5 （採泥）H-1～H-5
	I 猪苗代湖	北岸	水生生物採取	平成26年6月26日、7月17日	魚類、水底落葉等
			水質・底質採取	平成26年6月26日	（採水）I-1,I-3 （採泥）I-1～I-4
J	南岸	水生生物採取	平成26年6月26日、7月17日	藻類・植物、甲殻類、貝類、魚類、両生類	
		水質・底質採取	平成26年6月26日	（採水）J-1 （採泥）J-1	
海域	K 阿武隈川河口沖	阿武隈川河口前面海域	水生生物採取	平成26年7月2日	甲殻類、イカ、魚類
			水質・底質採取	平成26年7月2日	（採水）K-2 （採泥）K-1～K-3
	L 相馬市沖	松川浦	水生生物採取	平成26年7月16日	海草・藻類、多毛類、甲殻類、貝類、魚類
			水質・底質採取	平成26年7月16日	（採水）L-2,L-3 （採泥）L-1～L-3
	M いわき市沖	久之浜沖	水生生物採取	平成26年7月18日	海草・藻類、ウニ・ナマコ・ヒトデ、貝類、魚類
			水質・底質採取	平成26年7月18日	（採水）M-2 （採泥）M-1～M-3

## 2. 調査項目、調査地点等

### 2. 1 調査項目

水生生物は、採取した全検体について放射性セシウム (Cs-134、Cs-137) の分析を、採取した検体のうち食物連鎖網で上位に位置する大型魚類、甲殻類、石灰質の組織を持つ生物 (貝類等) については、放射性ストロンチウム (Sr-90) の分析を行った。

水質・底質については、水生生物採取予定地点ならびに周辺環境からの流入等により粘土粒子及び粗粒状有機物 (水底落葉等) が集積すると思われる地点を調査対象とし、放射性物質及び一般項目の分析を行った。

水生生物、水質、底質の測定項目及び分析検体については、下表の通り。

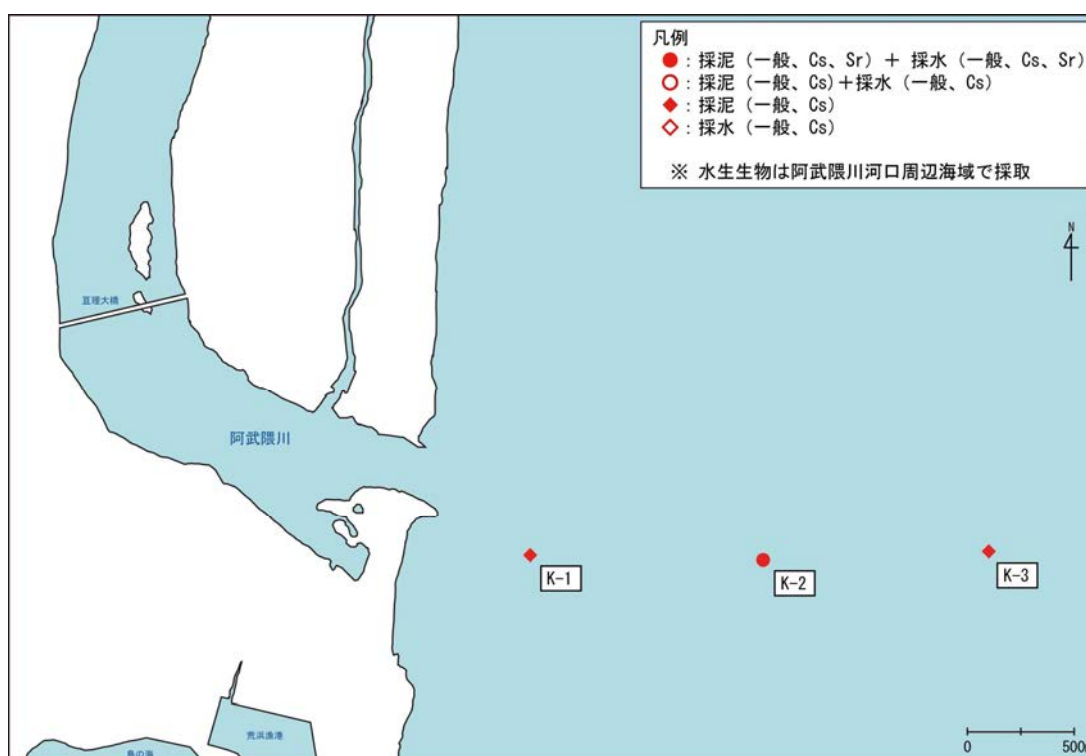
#### ○ 調査対象と測定項目

対象	測定項目		分析検体
水生生物	放射性物質	放射性セシウム (Cs-134、Cs-137)	全採取検体
		放射性ストロンチウム (Sr-90)	大型魚類、甲殻類、貝類等
水質	放射性物質	放射性セシウム (Cs-134、Cs-137)	1 水域当たり 1～6 地点の検体
		放射性ストロンチウム (Sr-90)	1 水域当たり 1 地点の検体
	一般項目	pH	1 水域当たり 1～6 地点の検体
		BOD	
		COD	
		DO	
		電気伝導率	
		塩分	
		TOC	
		SS	
濁度			
底質	放射性物質	放射性セシウム (Cs-134、Cs-137)	1 水域当たり 3～5 地点の検体
		放射性ストロンチウム (Sr-90)	1 水域当たり 1 地点の検体
	一般項目	pH	1 水域当たり 3～5 地点の検体
		酸化還元電位	
		含水率	
		TOC	
		強熱減量	
		土粒子の密度	
	粒度組成		

## 2. 2 各水域の調査地点

### (1) 阿武隈川水系（阿武隈川 A、阿武隈川 B 及び阿武隈川河口沖 K）

阿武隈川水系は、地形的に粘土粒子及び粗粒状有機物（水底落葉等）が集積する可能性がある水域として、原瀬川（支川）及び新舟橋（福島県二本松市）から飯野堰堤（飯野ダム）までの範囲を阿武隈川 A、松川（支川）の合流部から大正橋（福島県伊達市）までの範囲及び摺上川（支川）が流入する区間のある水域を阿武隈川 B とした。また、阿武隈川を通じ放射性物質の流出が懸念される阿武隈川河口の前面海域を調査地点とし、阿武隈川河口沖 K とした。



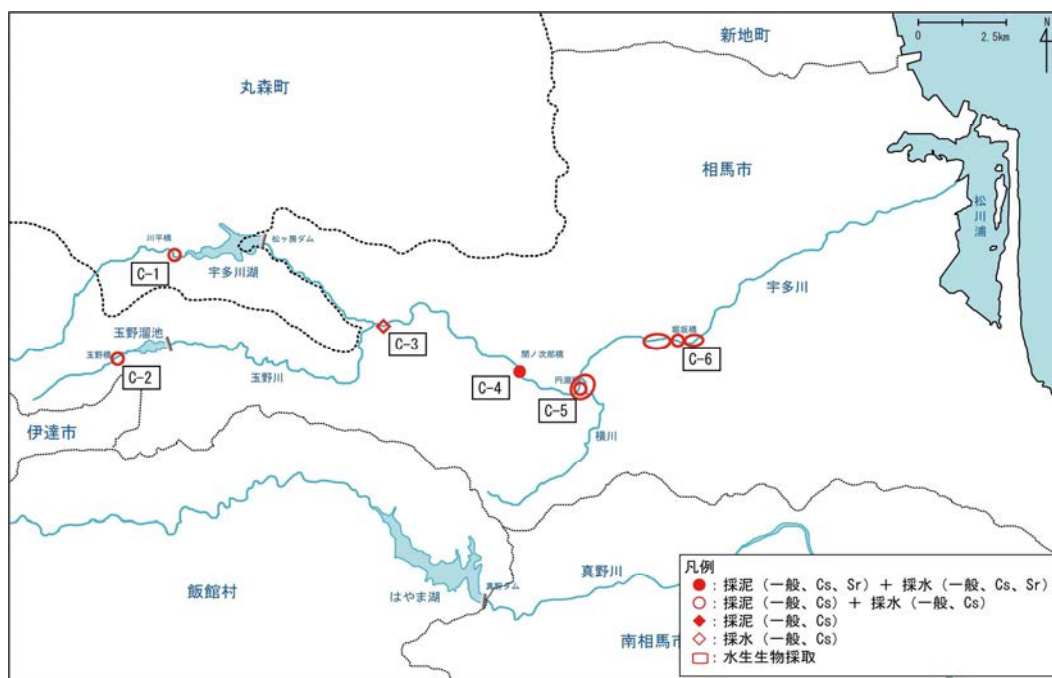
阿武隈川河口沖 K の調査地点詳細図



阿武隈川 A と阿武隈川 B の調査地点位置関係図

(2) 宇多川 C

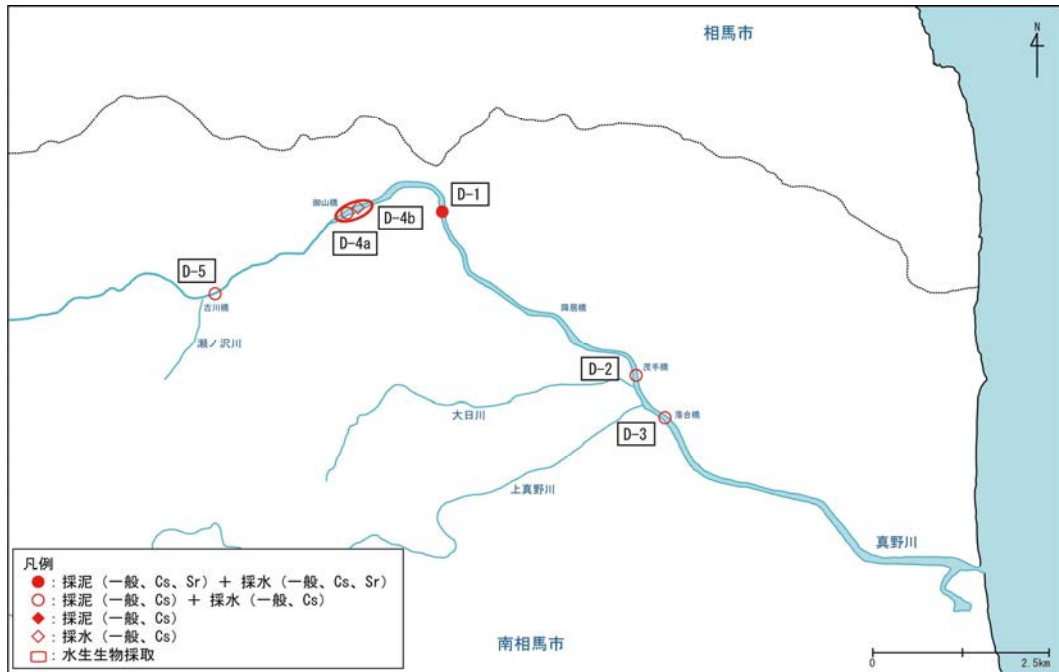
松ヶ房ダム（宇多川湖）の流入部である川平橋から堀坂橋にかけての範囲と、玉野溜池（支川玉野川）の流入部である玉野橋付近を調査地点とし、平成 24 年度秋期より調査を開始した。



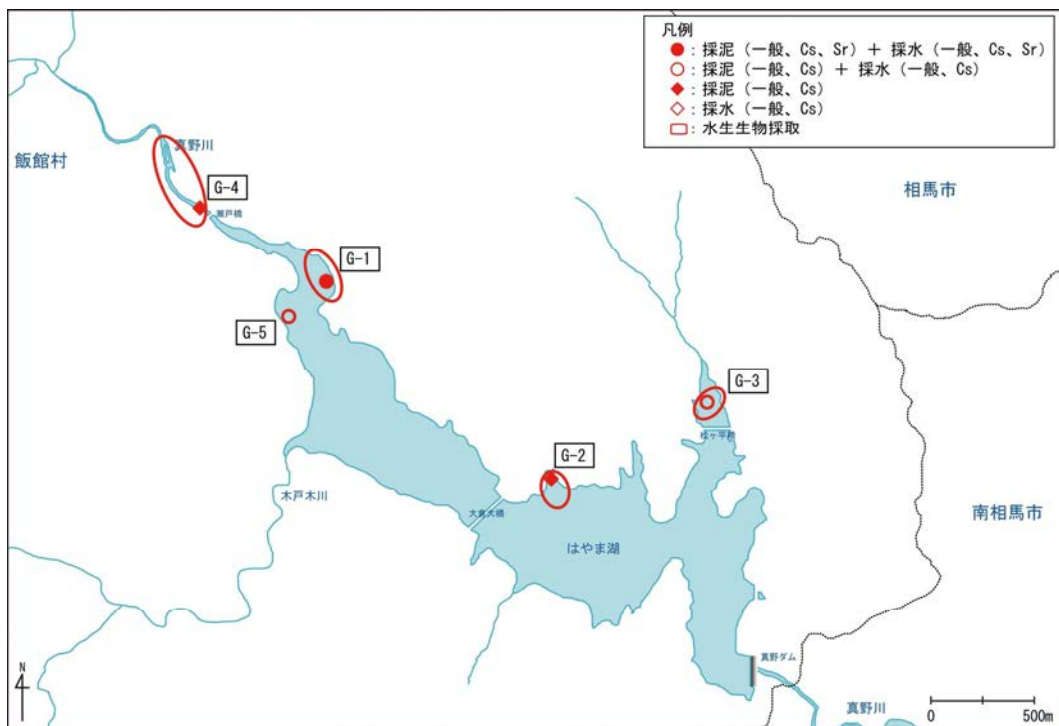
宇多川 C の調査地点詳細図

(3) 真野川水系（真野川 D 及びはやま湖 G）

真野川水系は、善並橋から落合橋（福島県南相馬市鹿島区）までの範囲を真野川 D、はやま湖（真野ダム）全域及びはやま湖の流入部をはやま湖 G として、調査を実施した。



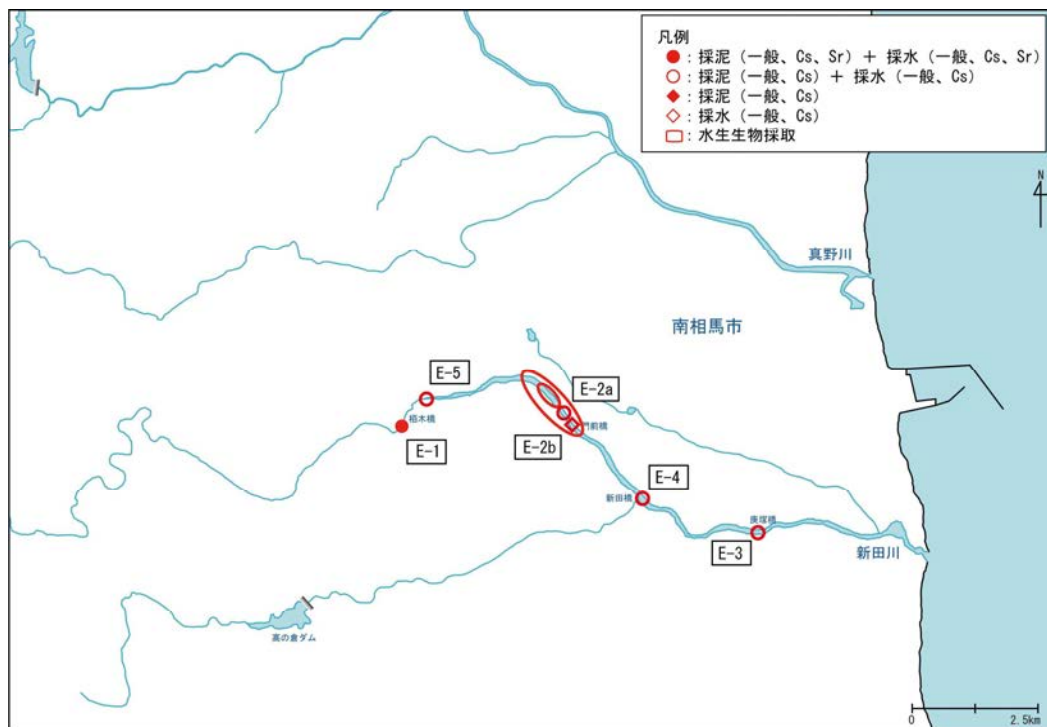
真野川 D の調査地点詳細図



はやま湖 G（真野ダム）の調査地点詳細図

(4) 新田川 E

栢ノ木橋から須賀内橋までの範囲を調査地点とした。



新田川 E の調査地点詳細図



(5) 太田川 F

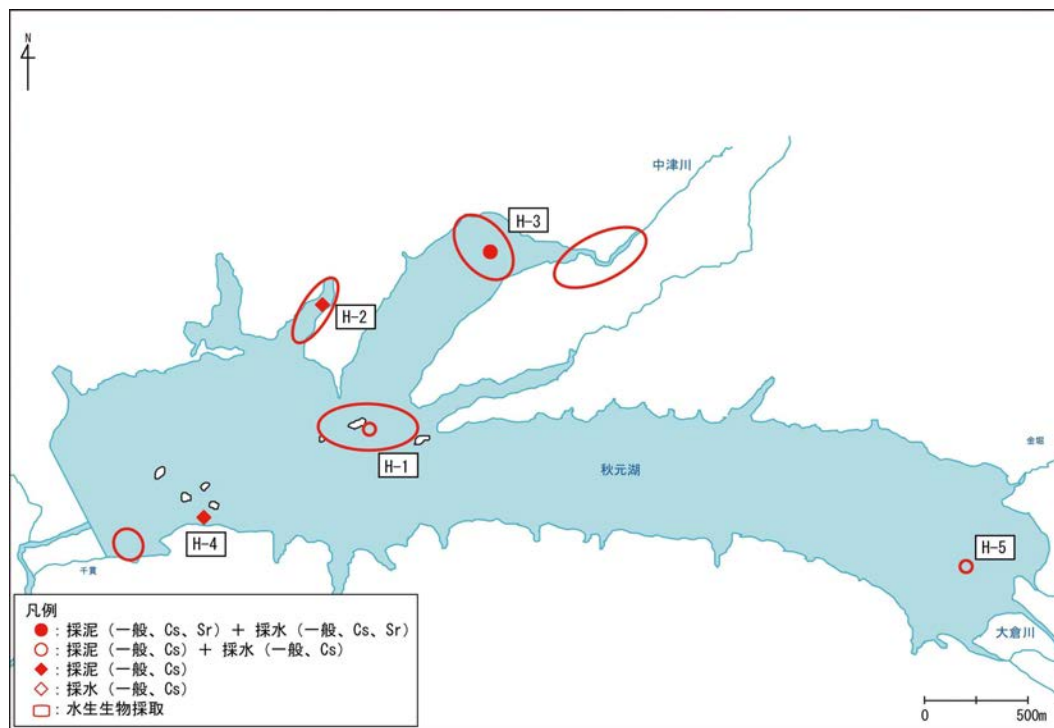
八重米坂橋から米々沢地区までの範囲を調査地点とし、平成 24 年度秋期より調査を開始した。



太田川 F の調査地点詳細図

(6) 秋元湖 H

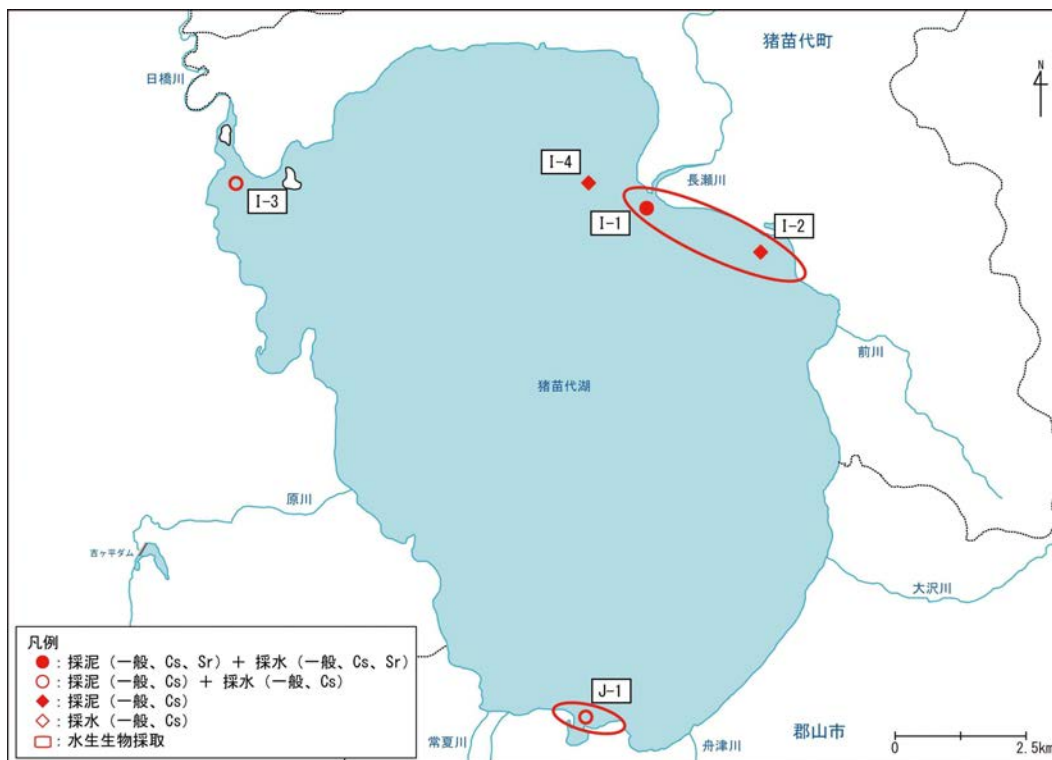
秋元湖全域と中津川の合流部、ならびに秋元湖の周辺を調査地点とした。



秋元湖 H の調査地点詳細図

(7) 猪苗代湖 I (北岸) 及び猪苗代湖 J (南岸)

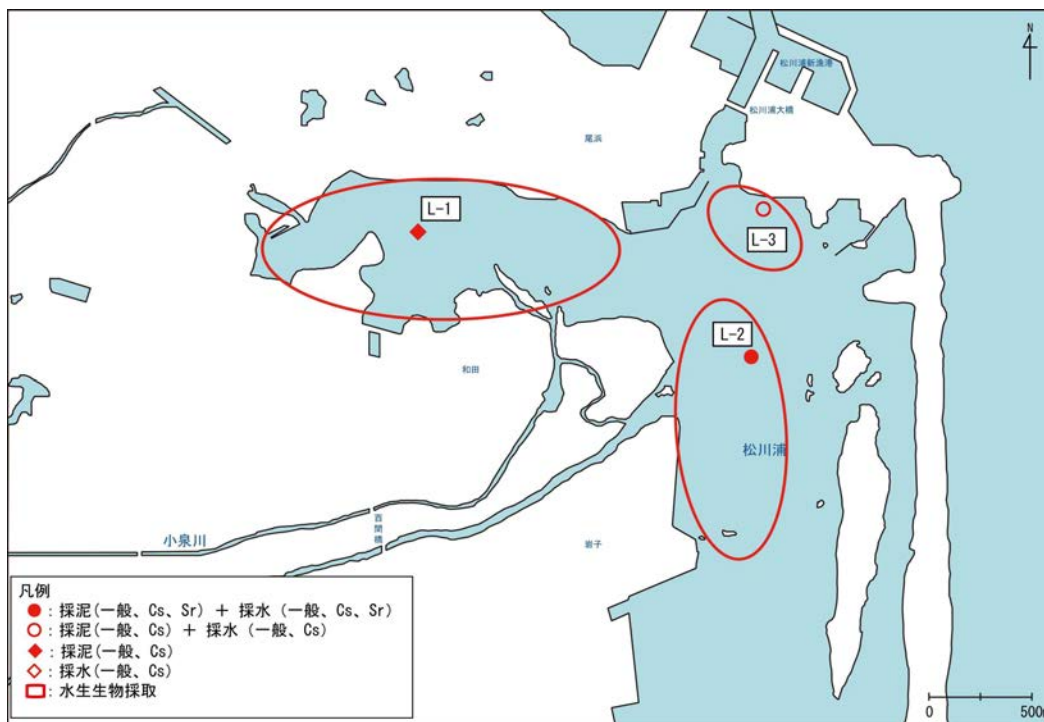
流入河川である長瀬川の河口周辺及び流出河川である日橋川の流出部 (北岸) と、南岸を調査地点とした。



猪苗代湖 I (北岸) 及び猪苗代湖 J (南岸) の調査地点詳細図

(8) 相馬市沖L

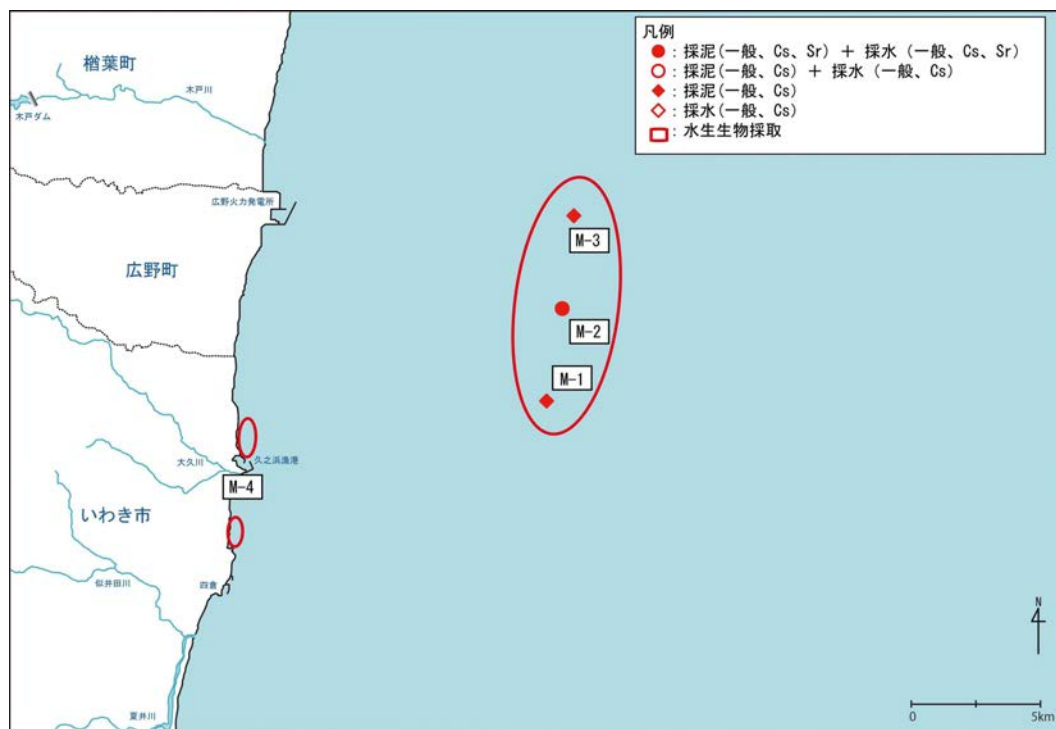
宇多川の河口域を中心に、松川浦内を調査地点とした。



相馬市沖L(松川浦)の調査地点詳細図

(9) いわき市沖 M

久之浜漁港の沖合と久之浜の沿岸域を調査地点とした。



いわき市沖 M の調査地点詳細図

### 3. 調査結果

淡水域と海水域の水生生物について放射性セシウム濃度を比較すると、過年度調査と同様、海水域の水生生物より淡水域の水生生物の方が高い傾向が見られた。

なお、水環境中における底質の放射性セシウム濃度は、過年度調査と同様、同一水系の場合は停滞区間（堰堤、ダム等）で高い傾向であり、停滞区間の流れ込み部で特にその傾向が顕著であった。

放射性ストロンチウム濃度は、過年度調査と同様、底質では淡水域で高い傾向を示したが、水質では淡水域と海水域との違いは見られなかった。

○ 放射性セシウム (Cs-134、Cs-137 合計) 測定結果概要

① 河川、湖沼

単位：Bq/kg-wet

調査水域	時期	藻類・植物	水生昆虫	クモ類	甲殻類	貝類		魚類	両生類	粗粒状有機物 (水底落葉等)	
						軟体部	貝殻				
阿武隈川水系	阿武隈川 A	H26 6~7月	600	16,109 (2種)	—	36	30	—	7.0~66 (11種)	16~274 (3種)	313
	阿武隈川 B	H26 6~7月	16,202 (2種)	7.8~132 (5種)	—	32	—	—	6.5~51 (19種)	11~254 (3種)	132
宇多川 C		H26 6~7月	313	16~147 (3種)	—	19~40 (3種)	14	—	15~69 (8種)	174	206
真野川水系	はやま湖 G (真野ダム)	H26 6~7月	104,550 (2種)	63,80 (2種)	—	—	111	—	179~1,200 (7種)	—	640
	真野川 D	H26 6~7月	25,221 (2種)	39,242 (2種)	—	150~272 (3種)	114,202 (2種)	—	44~293 (6種)	50,950 (2種)	390
新田川 E		H26 6~7月	245	72~900 (4種)	—	188~271 (3種)	136	14	131~356 (6種)	1,490	1,080
太田川 F		H26 6~7月	690,1,330 (2種)	404	—	770~1,160 (4種)	212	—	480~2,200 (5種)	269	—
秋元湖 H		H26 6~7月	13,149 (2種)	4.4, 14 (2種)	—	50	59	—	14~176 (13種)	19~232 (3種)	86
猪苗代湖	猪苗代湖 I (北岸)	H26 6~7月	—	—	—	—	—	—	17~148 (10種)	—	21
	猪苗代湖 J (南岸)	H26 6~7月	0.45~3.6 (3種)	—	—	16	12	—	1.9~99 (10種)	2.9~47 (4種)	—

※N.D. は、検出下限値未満であることを示す。

※生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※測定に供する試料は、全個体を測定することを原則としている。

※水生昆虫は、平成 24 年度秋期調査からカワゲラ目、トビケラ目、トンボ目、ヘビトンボ目の 4 分類（食性、種類別）として採取・分析しているが、平成 26 年度 6～7 月調査からカゲロウ目を加えた 5 分類とした。

② 海域

単位：Bq/kg-wet

調査水域	時期	海草・藻類	多毛類	ウニ、ナマコ、ヒトデ	甲殻類	貝類		イカ・タコ	魚類
						軟体部	貝殻		
阿武隈川河口沖 K	H26 6～7月	—	—	—	3.2	—	—	0.30	2.2～3.5 (4種)
相馬市沖 L (松川浦)	H26 6～7月	1.7～288 (3種)	38	—	N.D.～15 (4種)	0.85、2.9 (2種)	—	—	2.1～73 (3種)
いわき市沖 M (久之浜)	H26 6～7月	0.71、8.2 (2種)	—	N.D.～10 (4種)	—	3.0	—	—	0.92～55 (14種)

※N.D. は、検出下限値未満であることを示す。

※測定に供する試料は、全個体を測定することを原則としている。